

大会新の64で初優勝

従来の記録を4打縮める

8 アンダー、64

平田 兼慎（宮崎・尚学館小6年）



【写真はゴルフタイムス提供】

恐るべき小学生だ。「苦手のパットがすごく良かった」とは言っても、64というスコアはそう簡単に出せるものではない。試合でのベストスコアが73だから自己ベストを9打も上回った。前半のアウトが4バーディー、1ボギーの33。その中には4番10m、6番7mの長いバーディーパットもある。10番からの3連続を含み、インは5バーディー、ノーボギーの31。インはアイアンが切れ、ピンに絡んだ。唯一のボギーは7番ショートだが、パーオンできなかったのは、このホールだけだった。「気持ちいいゴルフでした。今日はパットが入る気がした」とニコニコ顔である。

宮崎県延岡市出身。ゴルフを始めたのは小学1年時のテレビ観戦がきっかけ。163cm、66kgの体格からのドライバーの平均飛距離は250ヤード。好きな選手はタイガー・ウッズとセベ・バレステロス。ウッズは現役だが、故人となったバレステロス？「昔のテレ

ピを見て好きになりました」。困難な位置からでも寄せてくる天才的なショットやアプローチに憧れるのだろう。

全国大会では「今日みたいなプレーをしたい」と意気込む。九州小学生男子のこれまでの記録を4打も縮めてのぶっちぎりV。今度は日本という舞台で、どんなビックリを披露するか。

大会タイ記録で初優勝

9個の1パットパー

2 アンダー、70

藤野 蒼來（鹿児島・小山田小6年）



【写真はゴルフタイムス提供】

恐るべき小技の持ち主。ゴルフはアプローチ、パターというが、それを体現したのが、この日の藤野のゴルフだ。18ホール中、半分の9ホールで1パットのパーを拾いまくった。「アプローチでカバーできて、パットも良かった」とかわいい笑顔を見せた。バーディーは

4、18番のロングで2個。ボギーを叩かなかったのが、2010年に田中瑞希（熊本・桜木東小6年）が作った2アンダー、70の九州小学生女子の記録に肩を並べられた要因となった。自己ベストの69には届かなかったものの、「ティーショットをラフに入れないようにして、入ったのは1、2度だけ。マネージメントも良かった」という満足のいくプレーだった。

これまで鹿児島県内での頂点はあるが、九州小学生は初制覇。「大事な大きな大会で勝てて、うれしい」。9月20日にはもっと大きな全国小学生大会が待つのだが、藤野の小技が見ものだ。